

ブレ仙台 宮城デスティネーションキャンペーン 芸術銀河2007協賛事業

◆特別展◆

毛利コレクション展

2007.10.19(金)ー12.9(日)

毛利 どうぶつ



いきものと植物の
意匠とかたち



かざり馬(はにわ)

石巻文化センター



毛利総七郎氏とコレクション

毛利総七郎氏は、明治21年(1888)石巻村住吉町に生まれました。12、3歳の頃、切手やマッチのラベルを集めたことがきっかけとなり、以来70数年間にわたって様々な資料を集めました。最近の調査では、マッチのラベルが8万点を超えたことがわかり、毛利コレクションが想像以上に多くの資料によって構成されていることが明らかになってきました。

集められた資料は、灯火具・喫煙用具等の生活用具、寛永通宝・枝銭などの石巻銭場関係資料、鐸・小柄などの刀剣関係資料、衣服・食器などのアイヌ関係資料、古文書、浮世絵、絵図等多岐にわたっています。

なかでも、明治42年から20年間にわたり、盟友ともいえる故 遠藤源七氏とともに莫大な私財を投じて発掘した沼津貝塚・南境貝塚から出土した遺物は約2万点にも及び、それらの出土品のうち東北大学に移管された2千点中、473点が重要文化財に指定されています。

毛利コレクションの中心をなす生活関連資料は、歴史に埋もれてしまいがちな庶民生活の実態や、粹でお洒落な日本文化の姿を現代に伝える貴重な資料であり、日本国内のみならず、国際的にも高い評価を得ています。毛利惣七郎氏の没後は、その意思を継いだ御遺族の方々による良好な状態での資料保存、そして収集品の追加が行われ、現在に至ります。

毛利コレクションと動植物

毛利コレクションには、過去から現代までのさまざま分野にわたる資料が含まれています。今までの展覧会では、分野ごとの展示を多くしてきました。今回は、視点をかえて「動物」や「植物」を軸として分野を超えて展覧会を構成することにしました。それは、幅広い年代の方々にコレクションに興味を持っていたいきたいと考えたからです。

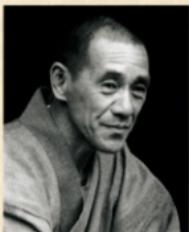
「動物」は、数多くの収藏品にモチーフとしてとりあげられてきました。虎のような獰猛なものから、鼠のような愛らしいものまで扱われています。人間と動物の関係をいろいろな観点から考えさせてくれます。

また、四季の移ろいの明確な日本では、多くの種類の「植物」が身近にとらえられてきました。華麗な花を咲かせる草花から野原にひっそりたたずむものまで、日本人は豊かな心で「植物」と接してきました。毛利コレクションのなかには、「植物」に慈しみを込めて制作した資料が多くあります。

この展覧会が、年代の離れた方々の間に共通の話題を提供でき、合わせて毛利コレクションの価値を再認識していただければ幸いです。



毛利総七郎氏 略年表



明治21年 6月2日	毛利理惣治・たねの次男として牡鹿郡 石巻村住吉町163番地に出生。
明治32・33年頃	高等小学校2・3年頃、マッチラベル の収集にやみつきになる。
明治35年 3月31日	石巻尋常高等小学校を卒業。
明治35年12月	東京簿記精修学館（現大原簿記学校）を卒業。
明治42年 7月	この年から沼津貝塚を遠藤源七氏とともに発掘作業を行う。 (昭和5年まで11回)。
大正5年	この年から本格的に沼津貝塚・南境貝塚の発掘調査を行う。
大正15年 6月	自宅を増築し、石器時代遺物陳列所を設ける。
昭和2年 9月22日	石巻庶民金庫(現石巻信用金庫)理事に就任。
昭和4年 6月21日	石巻町会議員(1期)に就任。
昭和7年 7月	自宅敷地内に岩作り、31坪の考古館を建設。
昭和8年 4月10日	石巻市議会議員(連続3期)に就任。
昭和15年 3月	遠藤源七氏とともに「陸前沼津貝塚骨角器圖録」を作成し、非売品として限定出版。
昭和25年 9月16日	宮城県史編纂委員会委員に就任。
昭和28年 6月	遠藤源七氏とともに「陸前沼津貝塚骨角器圖録解説」を作成し、非売品として限定出版。
昭和28年 5月20日	石巻市より議員として17年以上勤続し、郷土の文化財収集保存に努めた功績により市政功労者として顕彰される。
昭和34年 5月9日	石巻信用金庫理事長に就任。
昭和34年 6月24日	石巻市教育委員会より文化財収集保護に尽力した功績により社会教育功労者として顕彰される。
昭和40年11月3日	宮城県教育委員会より郷土の文化財を収集保護し資料活用に貢献した功績により表彰される。
昭和43年 1月17日	河北新報社より考古資料を発掘保存し、地方文化の発展に寄与した功績により第17回河北文化賞を受賞。
昭和43年11月3日	宮城県より教育文化功労者として顕彰される。
昭和44年11月23日	石巻市より礼遇者として顕彰される。
昭和45年11月3日	埋蔵文化財の発掘調査及び出土品等郷土文化財の保存公開に努め、文化財の保存と普及に尽力した功績により勲五等瑞宝章を受章。
昭和47年 9月30日	石巻信用金庫理事長を退任。
昭和49年11月23日	石巻市より第1回目の芸術文化功労者として顕彰される。
昭和50年 1月8日	石巻市住吉町一丁目の自宅で、86歳の生涯を閉じる。

土でできたいきもの

犬や馬、猪や鹿など、古くから人間は様々な動物と関わりを持って生活してきました。そのためその動物たちをかたちどつたものを作りつづけてきたのです。遺跡からも多くの動物が出土します。それらには、当時の人間たちの確かな技術と素朴な思考がみられます。同時に文字資料の少ない時代における貴重な情報を提供してくれます。



堂々たる馬

埴輪(はにわ) — かぎり馬(古墳時代)



土器に付けられたふくろうの飾り

動物付土器(仙台市大野田遺跡) — 純文時代

仙台市教育委員会蔵

描かれた動植物

江戸時代には、特定の動物を得意として描く画家がいました。例として虎の岸駒、猿の森祖先、鶴の伊藤若冲らが挙げられます。ここでとりあげた東東洋もその中の一人で鹿の絵が得意でした。

東東洋は仙台四大画家の一人として有名な画家ですが、鹿も含めて彼の描く動物は愛らしくて、ときにはユーモアを感じられます。



卷物に描かれた動物や植物（部分）
花鳥雜絵巻 東東洋筆 文化3年（1806）

仙台市博物館蔵

絵馬（えま）



雨がやんでくれることを願いました。 赤馬 明治42年（1909） 常磐崎神社蔵

古くには、神社に生きた馬を奉納する習慣がありました。その後変化して現代のような、描かれた絵馬を奉納するようになりました。また、図柄も馬だけでなく、物語の一場面や風景など多彩に変化していきました。それとともに絵馬に込められた信仰や願いごとも変化していきました。

今回の展示では、本来の画題である「馬」をとりあげ、展示しました。

い しょ う か 意匠化された動植物

人間の用いる道具類には、さまざまな動植物が意匠として用いられてきました。毛利コレクションに収蔵されている資料にも、同じことがいえます。毛利コレクションには、近世以前のものも少なくないのですが、それらに見られる意匠はきっと古びていません。むしろ、斬新なものも数多くあります。それが、同コレクションの魅力のひとつになっています。

古鏡(こきょう)

毛利總七郎氏は雅号を「古鏡」と名乗るほど「古鏡」には思い入れがあった。そのため、収蔵品も多く全部で557点に達します。鏡は形によって、円鏡・花鏡・方鏡・柄鏡に分類されます。その形に応じてデザインを工夫している点にも制作者たちの気持ちが込められています。



とびはねる鶴 乗・芦葦・山図柄鏡 (近世)



竹の下に横たわる虎 竹・虎図柄鏡 (近世)

鏡箱(きょうばこ)

鏡を使用しないときに入れておいた箱。くもらないように丁寧にあつかい布で包んで鏡をしまっておいたのが、鏡箱です。



咲き誇る草木 桜図柄鏡箱 (近世)

櫛(くし)

櫛は縄文時代から製作されていますが、近世になって、女性の髪型の変化・発達するのにあわせて多様な美しい櫛が製作されるようになりました。



はばたく鶴 朝日に舞鶴図柄牡丹櫛 (近世・近代)



萩の中で遊ぶ鳥 萩に鳥図柄高麗形櫛 (近世・近代)

[刀装具]

鐔、笄、小柄、目貫など日本刀に装備された小道具類を刀装具といいます。室町時代以後、打刀を使って戦うようになり、刀装具も変化していきました。

鐔(つば)

柄を握る手が刀身の方に滑るのを防ぐためと同時に、相手の攻撃から自身の手を守るために付けられています。また、刀のバランスを整えるという重要な意味を持ちます。しかし、江戸時代になると戦が少くなり、しだいに鑑賞用のものが数多く作られました。刀を作る刀鍛冶や甲冑師が作った鐔もありましたが、室町末期から桃山時代にかけて鐔の専門工が出現しました。



あそぶりス
菊恋鼠団鐔（近世）



愛らしいスミレとかわいい鳥
董に小禽団鐔（近世）

笄(こうがい)

刀の鞘に付ける、付属品のひとつ。髪の毛を整えるために用いられました。ただし、その目的は次第に薄れ形式的な意味を持った飾りとなっていました。



あざやかな鉄線の花
鉄線団笄（近世）



うごめく龍
龍団笄（近世）

小柄(こづか)

元来は刀の鞘に付いている、細身の小刀。初めは小刀の柄の部分を小柄と称していましたが、柄がかざりのようになり、小刀の実用的な部分が薄れるにつれて、全体を小柄と呼ぶようになっていきました。



たわむれる馬
群馬団小柄（近世）



活き活きとした海老
海老団小柄（近世）

❸ 縁頭(ふちがしら)

刀の鐔の付け根に付ける金具を縁といい、柄の先端の部分に着ける金具を頭といい、組み合わせて縁頭といいます。縁と頭に共通のモチーフを用いることが多く見られます。



すがすがしい百合(ゆり)の花
百合花図縁頭（近世）

かわいい酸漿(ほおづき)の実
酸漿図縁頭（近世）

❹ 目貫(めぬき)

刀の柄の部分につける装飾金具。本来は、刀剣を柄に留める目釘の上を飾っていました。近世に入ってから目釘から離れ、他の場所に付けられるようになり飾りとしての性格を強めていきました。



飛ぶようにはしるキリン
麒麟目貫（近世）



どうもうなトラ
虎目貫（近世）

[その他の工芸品]

〔 根付(ねつけ) 〕

印籠・巾着などの提げ物を帶に留めておくために用いられた小工芸品。提げ物と根付を紐で結び、紐を帶の下を通して、根付を帶の上に出し提げ物を落ちないようにして用いてきました。現代でいえば携帯電話のストラップのようなものです。

形状、素材、色彩等さまざまであり、毛利コレクションにも数多くの作品が收藏されています。



元気に泳ぐ鯉
鯉の滝登り団根付（近世・近代）



静かる秋
秋草に双蝶団根付（近世・近代）

〔 矢立(やたて) 〕

携帯用の筆記用具。墨壺と筆入れをひとつの容器に合わせてつくったものです。文献には鎌倉時代から見られます。江戸時代になると商家の筆記具を代表するような物となりました。その後、さまざまな素材が用いられるようになり、なかには象嵌を施すような工芸品化したものもつくられました。



龍の口を巧みに利用
龍頭付矢立（近世）



想像上の動物の見事な組み合わせ
龍・鳳凰図・雷文等矢立（近世）

〔 漆器(しっき) 〕

日本では、古くから製作されており、縄文時代前期にさかのぼる遺品も発見されています。漆器の産地は各地にありますが、東北地方でも、岩手県の淨法寺や福島県の会津など有名です。毛利コレクションのなかにもそれらの産地の製品を含め数多くの漆器が收藏されています。



夏の夜の美しい様子
夏草に虫の団梅（近世・近代）



華麗(かわい)な水仙と鼈
水仙に鼈団梅（近世・近代）

出品資料一覧

出品資料目録

資料名	点 数	時 代	分 類	点 数
土製品	4	縄文・弥生	動物形土製品	4 (1点は複製品)
縄文式土器	3	縄文		3 (1点は複製品)
埴 輪	3	古墳		3
絵 画	4	近世・近代	東東洋「花鳥雜画卷」 (文化3年) 川端龍子「洋瓜」 (制作年不詳) 堂本印象「春日晴朗」 (制作年不詳) 松本蘭助「菊蟹画譜」 (制作年不詳)	4
絵 馬	10	近世・近代		10
化粧道具	6	近世・近代	鏡箱	6
化粧用具	82	近世・近代	櫛 簪	68 14
袋 物	1		提げ物	1
刀装具	99 (目貫は45組と 単品15点)	近世	镡 笄 小柄 縁 縁頭 目貫	11 21 22 26 19 45組(単品15)
根 付	60	近世・近代		60
矢 立	22	近世		22
漆 器	17	近世・近代	椀	17

*期間中資料の入れ替えをすることがありますので、このリストと一致しない場合があります。

* 土製品2点及び縄文式土器2点は仙台市教育委員会の所蔵です。縄文式土器1点と土製品2点と埴輪2点は東北歴史博物館の所蔵です。絵画の東東洋筆「花鳥雜画卷」は仙台市博物館の所蔵です。

また、絵馬2点は零羊崎神社の所蔵です。他の大部分は毛利コレクションです。

なお、一部石巻文化センターの所蔵もあわせて展示しています。

おもな参考文献

- 「日本の美術 No64 刀装具」 1971年 至文堂
- 「ものとにんげんの文化史 12 絵馬」 1974年 法政大学出版局
- 「鏡の歴史」展 1887年 石巻文化センター
- 「宮城の絵馬」 1991年 東北歴史資料館
- 「石巻地方の絵馬」 2002年 石巻文化センター
- 「仙台の絵師 東東洋」 2005年 仙台市博物館
- 「大江戸どうぶつ図館」 2006年 仙台市博物館

* 特別展開催にあたり、全面的に御協力をいただきました毛利コレクション所有者の毛利伸氏には特に感謝の意を表します。

また、仙台市教育委員会、仙台市博物館、東北歴史博物館、及び櫻谷鎮雄氏には貴重な資料を御出品いただき、佐藤雄一氏に貴重な御教示をいただきました。併せて感謝の意を表します。



特別展 毛利コレクション展

毛利どうぶつ園

いきものと植物の意匠とかたち

2007年 10月19日～12月9日

印刷・発行 2007年10月19日

編集・発行 石巻市教育委員会

〒986-8501 石巻市日和が丘一丁目1-1

印 刷 (株)鈴木印刷所



表紙写真／埴輪(はにわ) — かざり馬
裏表紙写真／櫻・馬団柄鏡





SPECIAL EXHIBITION MOURI COLLECTION